

株式会社エポック



【取材ご協力】
株式会社 エポック
〒437-1614
静岡県御前崎市塩原新田 1269
代表取締役 松本 仁孝様

平成16年に設立。貨物運送事業から始まり、バス・観光へと事業を拡大しています。特に運輸安全マネジメントでの高い評価や貸切バス事業者安全性評価認定制度 三ツ星を取得するなど、安全に関する取り組みは運送業界の中でも極めて高いレベル。企業や小中学校のバス送迎も行い、地元から厚い信頼を得ている企業です。



妥協を許さない、高いレベルの安全管理。

「安全管理はやって終わりではない。」

安全に関することには非常に積極的に取り組むエポック。「安全管理はやって終わりではない。」そう語るのは、代表取締役 松本仁孝さん。例えば、運転手の適性診断を実施しますが、「やって終わり」ではありません。従業員へ安全意識をより定着させるため、結果に対して必ず社長自ら指導します。「ただやるだけでなく、その後どう指導・対策をするか」を意識し、安全管理を行っているそうです。また、健康検査では、運送業ではめずらしく「脳ドック」を導入し、従業員の健康にもしっかりと気を配っています。他にも、月間・週間だけでなく1日ごとに細かく目標を設定したり、万が一に備えての研修・訓練を定期的開催したりするなど、日ごろから従業員が「安全」を意識できる環境を整えています。



交通安全に対する意識が広がる社会へ

同社の今後の展望について伺うと、松本さんが求める水準の安全管理を維持する為には、「この企業規模がちょうど良い」と言います。その根底には、ただ事業拡大を目指すのではなく、必ず安全を確保するという決意があります。また義務化の対象である運送業に限らず、通勤や仕事中に車を使用する会社にも、アルコール検知器を導入して欲しいと言います。アルコール検知器があることで、より飲酒運転に注意し、社会全体で交通安全に対する意識が広がっていくことを願っています。

「いつ、どこで、だれが」が明確な検査

エポックの安全管理の基幹部分を担うのが、東海電子のアルコール検知器『ALC-PRO II』および『ALC-Mobile II』。バス・観光事業では一泊で遠方への運転もあります。その際のアルコール検査では「いつ、どこで、だれが」が明確になっていることが重要。「東海電子の機器はごまかしが利かない」と松本さんは言います。『ALC-Mobile II』は専用のアプリでスマートフォンとアルコール検知器を繋ぎ、検査の様子を撮影・記録することが可能。撮影することで、他人が使用していない証明になり、確実な検査が可能になります。またそのデータを『ALC-PRO II』で一括管理することも、使いやすい点と言います。東海電子のアルコール検知器は、手抜きを許さず、信頼のおける製品として、エポックの安全追求に欠かせないものとなっています。



〔使用機器〕

- ・遠隔地対応型アルコール検知器 ALC-Mobile II
- ・設置型アルコール検知器 ALC-PRO II
- ・IC運転免許証リーダー

取材後記 「安全の為にはコストがかかる」と松本さんは続けます。事業拡大や利益ばかりを追い求めるのではなく、安全の為に必要な機器や設備にしっかりと投資をします。安全であることを最優先に考え、しっかりと社会的責任も果たしていこうとしています。そんなエポックは、これからも御前崎市の運送を支える企業で有り続けると感じました。